

平成 30 年度 学校経営計画書

学校番号	54	学校名	県立榛原高等学校（全日制）	校長名	渡邊昇司
------	----	-----	---------------	-----	------

1 目指す学校像

(1) 教育目標

校訓「至誠真剣」の下、歴史と伝統を継承しつつ、時代の変化に柔軟に対応する教育を創造する。

ア 自律的な生活習慣と確かな学力を身に付け、創造力、思考力、コミュニケーション能力を伸ばし、心身ともに健康で調和のとれた人間教育を推進する学校。

イ 将来の社会のリーダーの育成を目指し、積極的に地域等と連携しキャリア教育を推進する学校。

ウ 普通科・理数科の学科の特色を生かした教育を充実し、生徒や保護者、地域にとって魅力ある学校。

(2) 目標具現化の柱

ア 「時を守り、礼を正し、場を浄める」の生活信条を実践し、自律心を身に付けた生徒を育成する。

イ 確かな学力を定着させるとともに知的好奇心を刺激し、思考力・表現力を育てる教育課程を実践する。

ウ 高い志をもって、学習、学校行事、部活動等の課外活動に自主的、主体的に取り組む生徒を育成する。

エ 進路の意識高揚とその実現を図るため、地域等と連携しつつ、きめ細かい進路指導を推進する。

オ 自他を大切にできる態度や行動力を育み、安心安全な学校づくりに努める。

カ 授業力向上に向けた教員研修を推進し、常に授業改善を図る。

キ 校内組織を活性化し、職員の学校経営参画意識を高め、協働体制の確立に努める。

ク 生徒、保護者、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。

2 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	規律ある中での伸びやかな成長の支援	<ul style="list-style-type: none"> 毎朝の登校時のあいさつ、声かけ、身だしなみ、学年毎の時差登校指導を継続する。 コミュニケーションツールの適切な使用方法について指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣が確立している生徒 90%以上 	生徒 学年
			<ul style="list-style-type: none"> 校舎内での携帯・スマホの効果的で適切な活用 	教務 生徒
イ	確かな学力の定着とコミュニケーション能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ICTを効果的に活用し、知的好奇心を喚起し、思考力を身に付ける授業を実践する。 大学や地域との連携により、コミュニケーション能力や創造力を高める授業を行う。 科学技術系人材の育成を柱に理数教育の充実を図り、難関国公立大学及び医歯薬学部への進学者を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 「授業の内容が分かる」と答える生徒 80%以上 「授業では、他の生徒と対話したり、考えを発表したりする機会が多い」と答える生徒 90%以上 難関国公立大学及び医歯薬学部進学者（理数科3年生）25%以上 難関国公立大学及び医歯薬学部希望者（理数科1、2年生）50%以上 	教務 進路 理数
ウ	「自立した榛高生」の育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲が高まる課題を与え、主体的に家庭学習に取り組む態度と時間を確保する。 朝読書等を通して読書を推奨す 	<ul style="list-style-type: none"> 週5日以上、家庭学習に取り組む生徒 80%以上 	生徒 教務 保健 図書・広報
			<ul style="list-style-type: none"> 1人の読書量年間 12冊以上 	

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
		る。 ・将来の自立に向けた教育活動を保護者と連携し、推進する。	・「弁当の日」年5回実施 ・生徒の学校満足度90%以上	学年
エ	進路指導の充実と生徒の進路希望の実現	・総合的な学習の時間と連携したキャリア教育と計画的な進路指導を行い、生徒の第一志望を実現する。 ・進路シラバスに基づき進路指導関係の各種取組を計画的に行う。	・センター試験偏差値、全教科50以上 ・国公立大学合格者60人以上 ・「初期指導、面接指導等の進路指導に満足している」と答える生徒85%以上	進路
オ	安心安全な学校づくり	・相談体制を充実し、悩みを抱えた生徒への個別対応を強化する。 ・情報共有と適切な初期対応により、いじめを根絶する。 ・自他を大切にすることを育成する。 ・毎月の安全点検による修繕・危険箇所の早期発見と迅速な対応を行う。	・いじめ、体罰事案0件 ・非行等の問題行動0件 ・相談室の積極的活用 ・機に応じたケース会議の実施 ・施設・設備が原因となる事故0件	保健 総務 生徒 事務
カ	授業力向上に向けた教員研修の推進	・ICT環境整備を推進する。 ・県センター、校外研修等に参加し、授業力向上と教員としての資質向上に努める。 ・公開授業や教員・生徒による授業評価、相互授業見学等を行い、授業改善を推進する。 ・新学習指導要領や新しい大学入試システムの研究により、時代の求める教育を追究する。	・ICTを活用した授業の実施・見学、年2回以上 ・教職員の自発的な研修への参加 年1回以上 ・全教員がプロジェクターを使った授業を実践する。	研修・調査 教務
キ	教職員の協働体制の確立	・学校経営目標の具現化のための校内各組織間の連携を図る。 ・創立120周年に向けて将来構想の策定を図る。 ・ワーク・ライフ・バランスを考慮し、各業務の適正化を図る。	・教職員が協働、連携していると思う 85%以上 ・120周年事業実行委員会の活動の推進 ・各部署での業務を見直し、10%程度のダウンサイジングを目指す。	全分掌 学年 事務
ク	開かれた学校づくりと広報活動の充実	・地域貢献活動に参加し、「地域とともにある学校」を積極的にアピールする。 ・地域と連携した活動を通して、将来、地域のリーダーとして貢献できる生徒を育成する。 ・生徒による中学校訪問を活用して本校の情報や本校生の良さを積極的に発信する。 ・保護者や中学生へ進路情報を提供する。 ・榛高だより、学年通信、保健だより、図書館報、ホームページ、メール配信等の充実を図る。	・地域貢献活動参加者300人以上 ・地域等と連携した「地域リーダー育成プロジェクト」等の活動での生徒の満足度90%以上 ・中学校訪問等 年3回以上 ・保護者や中学生のための進路勉強会 年6回以上 ・平均して週3回以上のホームページの更新、榛高だより月1回の発行 ・保護者の学校満足度90%以上	総務 生徒 進路 図書・広報 保健 学年 管理職